

## 奥州に夢見た理想郷と庭園群 ～平泉の浄土庭園群～

佐藤 嘉広

(岩手県教育委員会生涯学習文化課主任主査)

### 1. 「平泉」の成立

#### (1) 理想郷の舞台～平泉

平泉は、日本列島の本州北部、古代の行政区画である陸奥国のほぼ中央に位置する。東を北上川、北を衣川、南を太田川によって囲まれ、西は起伏のある低い丘陵が続いている。「中尊寺建立供養願文」や「円隆寺梵鐘銘」によれば、平泉の一部又は全体が四神相応の地と考えられていた可能性が高い。

#### (2) 歴史的背景

中央勢力の地方支配をめぐる対立の構図は数世紀間に及んでいたが、11世紀中葉から後半においても両者の摩擦が顕在化し、内乱となった。遠く中央貴族の系譜をひきながらも自らを土着の「東夷」の末裔と称した藤原清衡が内乱の勝者となり、11世紀末に平泉を拠点とした。清衡が仏教思想に基づく国家鎮護を企図したことは、「中尊寺建立供養願文」に顕著に表される。加えて、末法思想の流行に基づく西方浄土概念の普及や、京都郊外における理想的空間形成の動向が、平泉に政治・行政上の拠点と一体化した現世の浄土が生み出される背景となった。

### 2. 理想郷の構築過程 ～平泉の浄土庭園群

#### (1) 清衡段階～中尊寺大池跡など

平泉に居館(柳之御所遺跡)を移した清衡は、まず支配領域の中心に塔を建立した(「吾妻鏡」)。この塔は現段階では史料上でのみ存在が知られるが、中尊寺境内を形成する関山丘陵のほぼ中央にあることは確実と考えられる。各種堂塔の建立に続いて、阿弥

陀堂であり後に葬堂となる金色堂が居館に向けて建立された。

中尊寺大池跡は、平泉における最初の浄土庭園である可能性がある。これまでの発掘調査により、中島を有すること、東側の低い部分が土堤によって護岸されていること、12世紀中に2時期の造り替えがあることが明らかとなっている。

大池跡を、「中尊寺建立供養願文」中の記載と対応させて考えた場合、その西側を中心に「三間四面檜皮葺堂」、「三重塔」、「二階瓦葺経蔵」、「二階鐘楼」などが所在したと考えられる。発掘調査では、経蔵跡と考えられる遺構が確認されている。

#### (2) 基衡段階～毛越寺庭園・観自在王院庭園

##### A. 毛越寺・観自在王院

12世紀第2四半期から第3四半期前半にかけて、二代基衡は毛越寺を建立した。本尊が薬師如来であることから、浄瑠璃浄土との関わりが説明可能である。円隆寺と嘉勝寺の二つの金堂を有するが、大泉が池と呼ばれている園池は円隆寺に面し、南大門から中島を介して正南北に架橋されていた。同様に、境内は土塁によって区画され、堂舎とともに軸方向は南北に整えられている。伽藍背後には、塔山が西北にそびえている。

大泉が池は現存する典型的な浄土庭園例として考えられる。東西に長く、北側護岸は玉石敷きである。導水は池の北東方向から、背後の山を水源とし、板石及び円礫などにより構築された遣水によっている。遣水を構成する配石の状況は、州浜や荒磯風に構築されている池の護岸や中島及び景石などとともに、「作庭記」の記述を具現化している。13回に及ぶ

発掘調査を経て往時の状況が完全に復元整備されている。なお、中島については2時期の変遷が跡付けられている。

観自在王院は、毛越寺境内の東側に隣接している。「吾妻鏡」では基衡の妻が建立した阿弥陀堂と伝えられている。境内及び堂舎の軸方向は、毛越寺と同様正南北である。

阿弥陀堂に対する池は舞鶴が池と呼ばれていて、中島を有している。中島にいたる橋については不確定である。導水は北西方向からで、毛越寺境内北東に所在する貯水池(弁天池)を水源としている。池と接する箇所では、「作庭記」の記述に沿って滝の伝い落ちの状況を配石により形成している。

#### イ. 金鶏山と施設配置

基衡段階は、平泉に浄土世界を形成することとなった諸施設の配置計画が明確化した時期である。金鶏山頂には経塚構築が開始され、毛越寺・観自在王院間の南北区画の北への延長が金鶏山頂に達することから、金鶏山が両寺院の配置に重要な役割を果たしたことが明らかである。また、柳之御所遺跡においても、居館(又は持仏堂)に付随する池に架けられた橋の西の延長が金鶏山頂に達することから、金鶏山を西方浄土に見立て、中心建物が池の設置とともに正南北軸に再構築された可能性が考えられる。

#### (3)理想郷の完成～無量光院跡

無量光院は、三代秀衡によって「宇治平等院の地形を模」して建立された。本堂は丈六阿弥陀仏を安置する阿弥陀堂で、翼廊を有し、ほぼ東に向いて開かれている。池は梵字が池と呼ばれ、素掘りである。導水は北西側から行われていて、水源は金鶏山方面の湧水と考えられる。池中には、本堂ののる中島、東小島及び北小島を浮かべている。東小島には、本堂に相対する施設が構築されていた。本堂から北小島には、架橋されていたことが確認されている。池のさらに外側は、土塁及び堀によって囲繞されている。また、近年の発掘調査成果から、無量光院の構築が秀衡の晩年であり、出家を相前後する時期であ

る可能性が高まっている。

無量光院は、池の東側から東小島をはさんで中島上の阿弥陀堂を見た場合、その背後に西方極楽浄土を想起させる金鶏山が位置している。そのため、池と仏堂と背後の山が一体となった浄土庭園の最高の発展形態と評価されている。また、猫間が淵をはさんで東側に柳之御所遺跡が接することから、政治行政上の拠点と西方極楽浄土がまさに一体化した空間として捉えることも可能である。

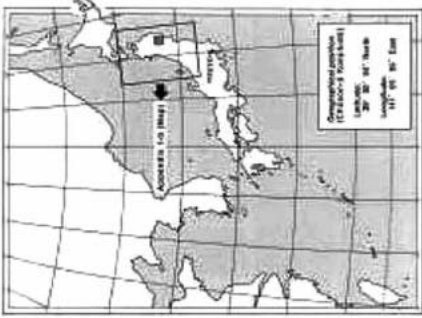
### 3. 浄土世界「平泉」

平泉の「浄土世界」は、初代清衡が平泉を領域の仏教支配の中心地とし、二代基衡によって浄土を形成する施設の配置計画が具体化し、三代秀衡晩年の無量光院の建立によって完成された。100年間の浄土世界の形成過程は、立地・形態・意匠それぞれに特徴をもつ浄土庭園の発展の過程でもある。それは、奥州藤原氏の政治行政的基盤のもと、日本で独特の展開を見せた複合的仏教思想に基づいて計画的に諸施設が配置され、自然地形により十分な水量の供給が見込まれた平泉でのみなしえたものである。

平泉は、理想的空間である「浄土」が単にひとつの寺院境内で完結することなく、浄土庭園など複数の施設が、都市的要素をもつ政治行政上の拠点施設と一体化して形成された、まとまりのある空間に創出された現世の理想郷といえるものであった。

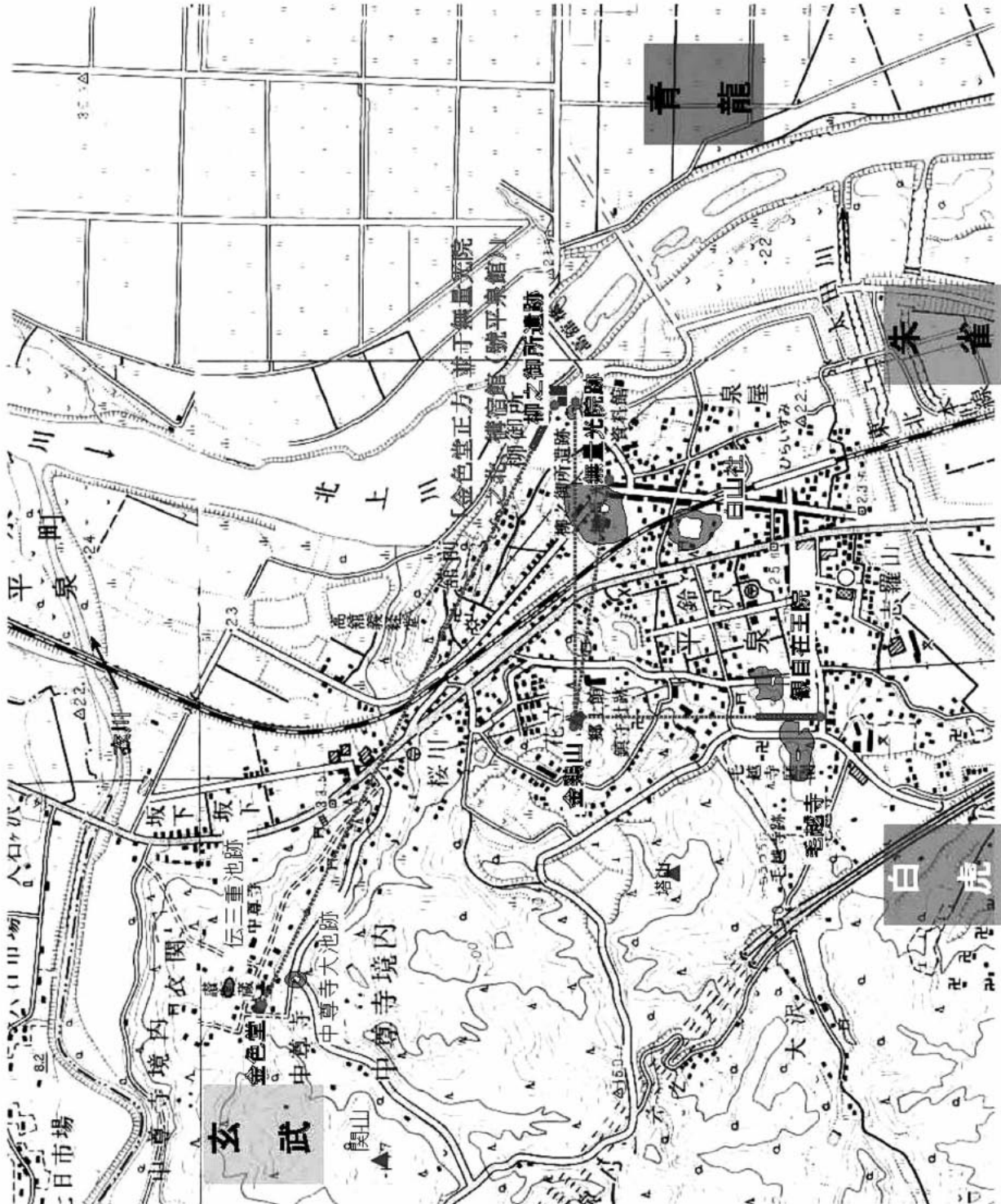
#### 参考文献

- 1) (財)京都市埋蔵文化財研究所編 2007 『院政期の京都 白河と鳥羽』
- 2) 平泉町教育委員会編 2007 『特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡整備報告書』
- 3) 藤島亥治郎編 1961 『平泉－毛越寺と観自在王院の研究』 東京大学出版会
- 4) 岩手県教育委員会編 2008 『平泉文化研究年報』第8号



餘、地、財、幣、之、消、盡、占、吉、吉、二、而、建、堂、塔、冶、真、金、而、顯、佛、經、經、藏、鐘、樓、大、門、大、屋、依、高、築、山、就、鑿、穿、池、龍、虎、協、宜、即、是、四、神、具、足、之、地、也、蠻、夷、歸、善、豈、非、諸、佛、摩、頂、之、場、乎、又、設、萬

〔中尊寺建立供養願文（二二六）〕



図一1 「平泉」の立地と諸施設の配置

以前善根旨趣、偏奉爲鎮護國家也、所以者何、弟子者東夷之遠曾也、生逢聖代之無征戰、長屬明時之多仁恩、蠻貊夷落、爲之少事、虜陣戎庭爲之不虞、當于斯時、弟子苟資祖考之餘業、謬居俘囚之上頭、出羽陸奥之土俗如從風草、肅愼

〔中尊寺建立供養願文（一一二六）〕

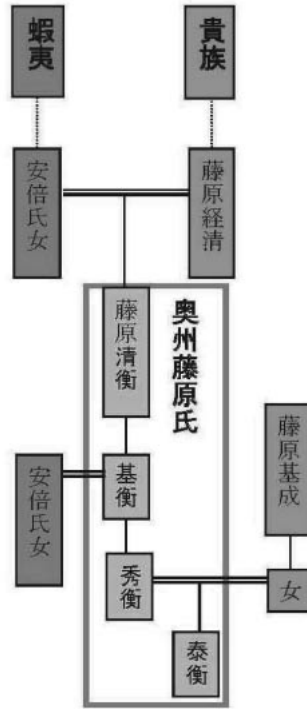


図-2 奥州藤原氏の系譜と自意識

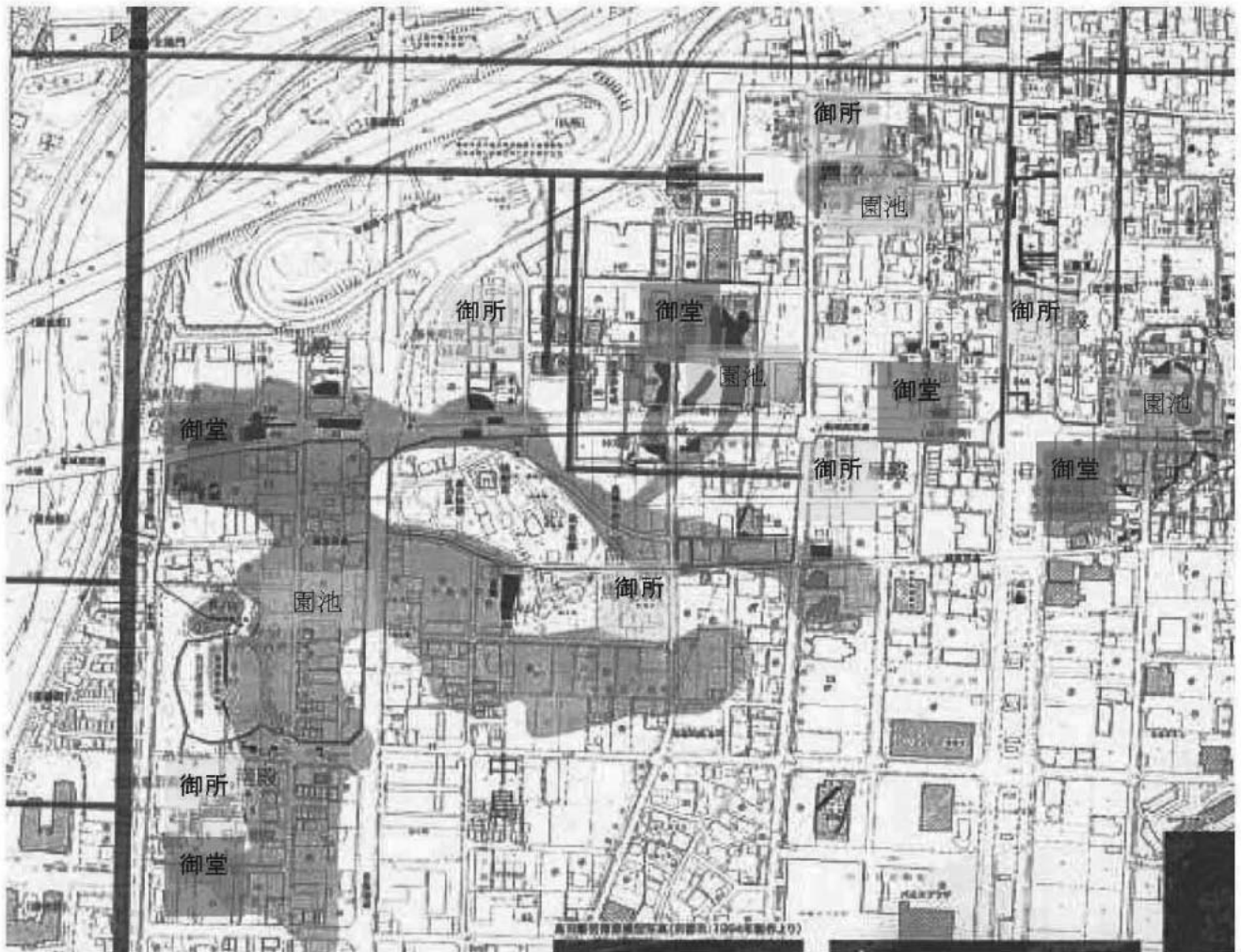


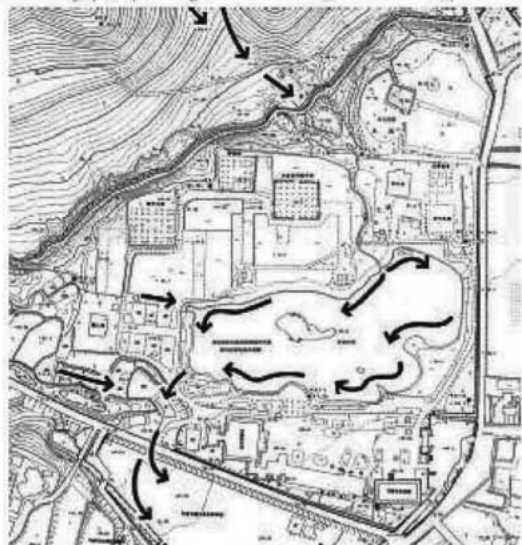
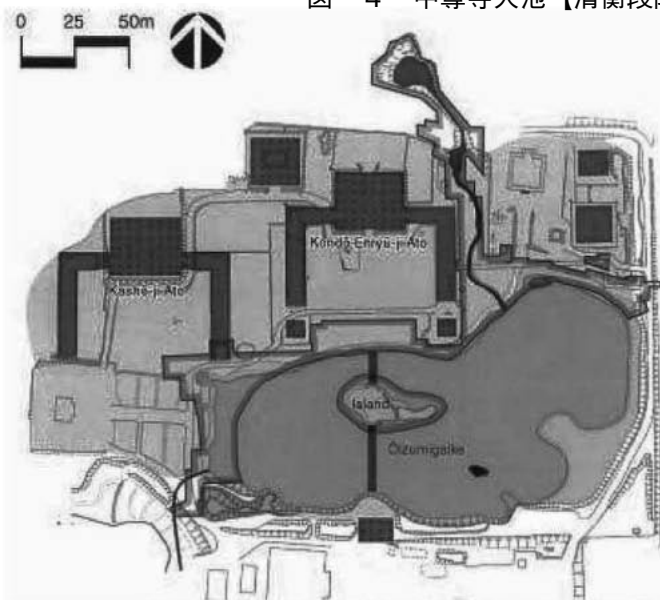
図-3 鳥羽離宮復元図案（京都市埋蔵文化財研究所 2007 付図を元図として作成）



奉<sub>二</sub>建立供養<sub>一</sub>鎮護國家大伽藍一區事  
 三間四面檜皮葺堂一字在左右廊廿二間  
 二階瓦葺經藏一字  
 奉<sub>レ</sub>納金銀泥一切經一部  
 奉<sub>二</sub>安置<sub>一</sub>等身皆金色文殊師利尊像一軀  
 大門三字  
 築垣三面  
 反橋一道廿二間  
 斜橋一道十間  
 龍頭鶴首畫船二隻  
 左右樂器大鼓舞裝束卅八具  
 右、築<sub>レ</sub>山以壇<sub>二</sub>地形、穿<sub>レ</sub>池以貯<sub>二</sub>水脈、

〔中尊寺建立供養願文〕(一一二六)

図-4 中尊寺大池【清衡段階】と「中尊寺建立供養願文」



一 毛越寺事  
 堂塔四十餘宇、禪房五百餘宇也、  
 基<sub>レ</sub>衡<sub>二</sub>建立<sub>一</sub>之、先<sub>レ</sub>金堂號<sub>二</sub>圓隆寺<sub>一</sub>、鑲<sub>二</sub>金銀<sub>一</sub>、繼<sub>二</sub>紫檀赤木等<sub>一</sub>、  
 畫<sub>二</sub>萬寶<sub>一</sub>交<sub>レ</sub>衆<sub>二</sub>色<sub>一</sub>、本<sub>レ</sub>佛安<sub>レ</sub>藥師丈六、同<sub>二</sub>十二神將<sub>一</sub>、  
 雲慶作之、佛菩薩像以

遣水事  
 一、先<sub>レ</sub>水のみなかみの方角をさだむべし。經云、東より南へむかへて西へながすを順流とす。西より東へながすを逆流とす。しかれば東より西へながす、常事也。又東方よりいだして、舎屋のしたをとおして、未<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>方へ出す、最吉也。青竜の水をもちて、もろ／＼の悪氣を白虎のみちへあらひいだすゆへなり。その家のあるじ疫氣悪瘡のやまひなくして身心安樂寿命長遠なるべしといへり。  
 四神相應の地をえらぶ時、左より水ながれたるを、青竜の地とす。かるがゆへに遣水をも殿舎もしハ寢殿の東より出て、南へむかへて西へながすべき也。北より出ても、東へまわして南西へながすべき也。經云、遣水のたわめる内ノ竜の腹とす、居住をそのへらにあつる、吉

〔吾妻鏡〕  
 〔作庭記〕

図-5 毛越寺と毛越寺庭園（大泉が池）【基衡段階】



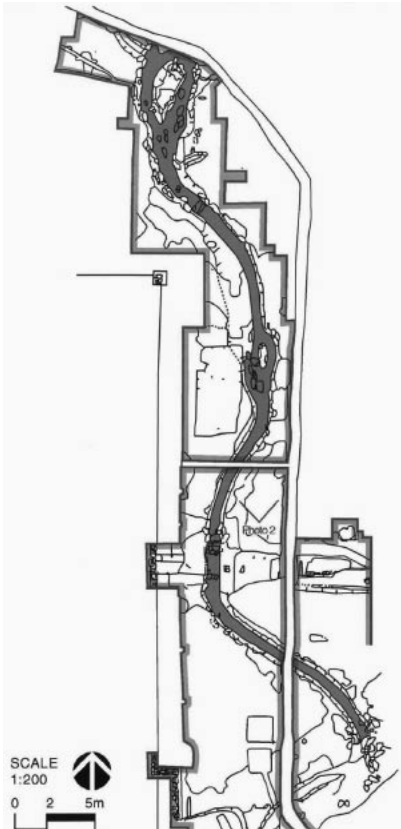


図-6 毛越寺庭園（大泉が池）の遣水

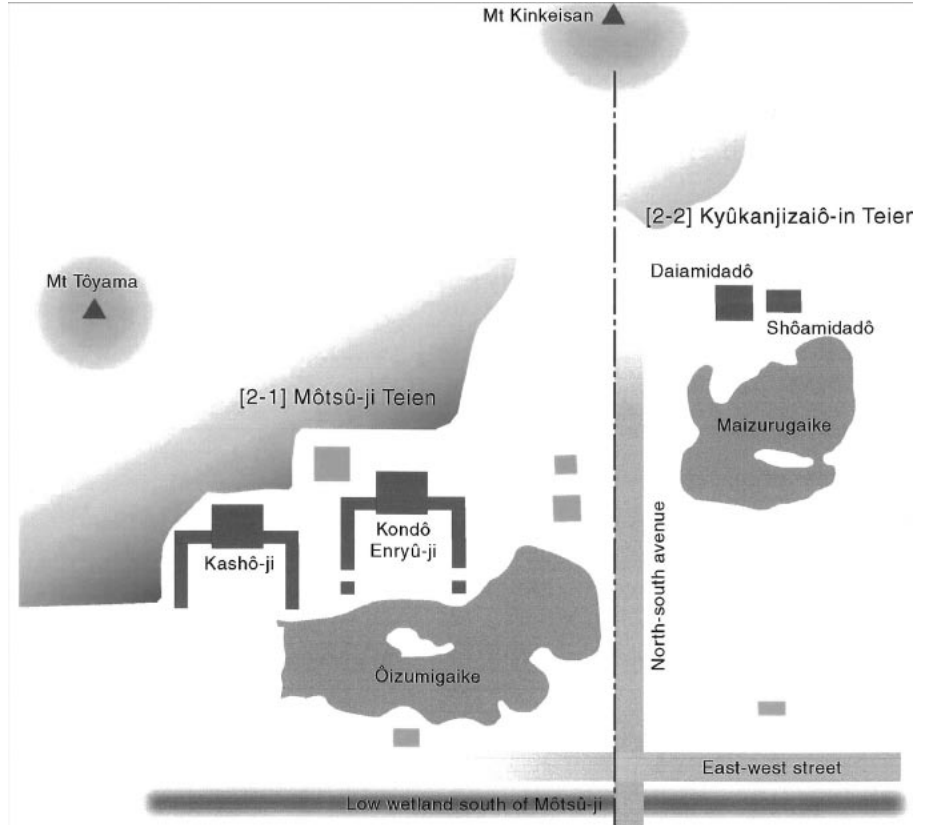


図-7 金鶏山と毛越寺・観自在王院の設計【基衡段階】

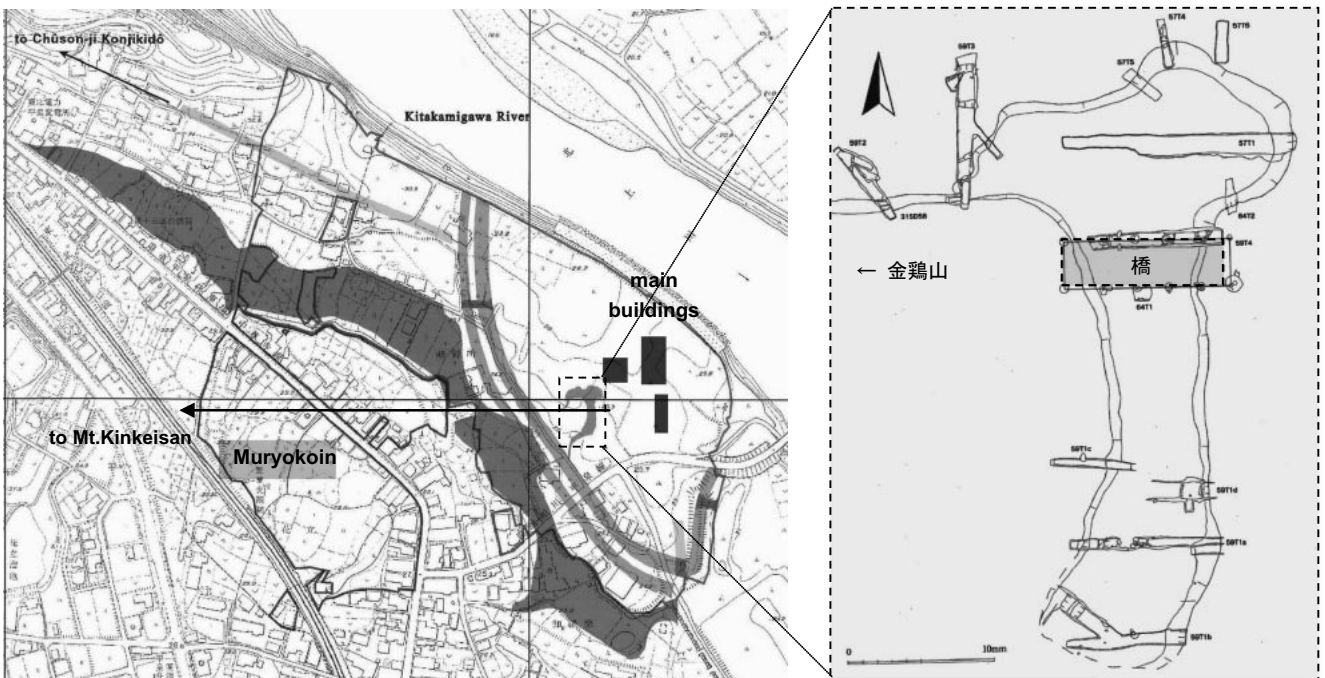
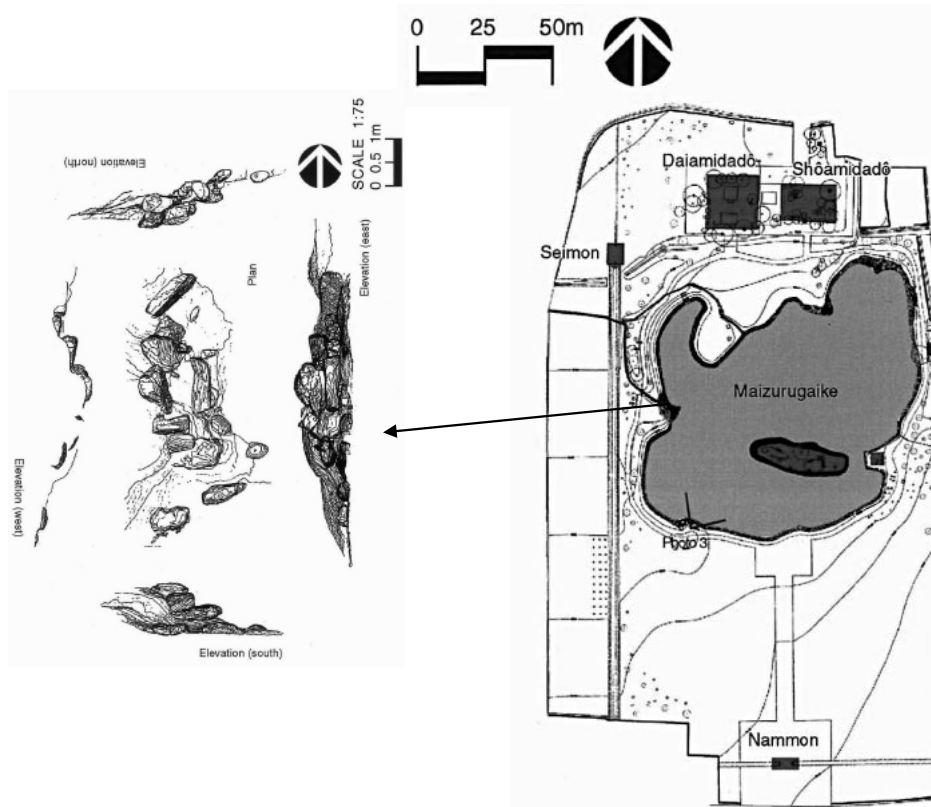


図-8 金鶏山と柳之御所遺跡園池及び主要建物の設計【基衡段階】

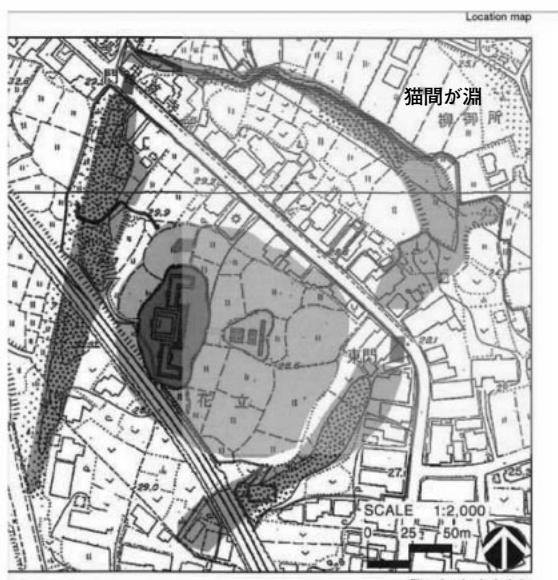
一、池のおつる様々をいふ事  
 向落、片落、伝落、離落、稜落、布落、糸落、重落、左右落、横落  
 むかひをちは、むかひて、うるわしくおなじほどにおつべきなり。  
 かたおちは、左よりそへておとしつれば、水をうけたるかしらあるまへ石の、たかさもひろ  
 さも、水落の石の半にあたるを、左のかたによせたて、その石のかしらにあたりて、よこ  
 さまにしらミわたりて右よりおつるなり。  
 つたひおちは、石のひだにしたがひて、つたひおつるなり。

「作庭記」



一、池はかめ、もしハつるのすがたにはるべし。水へうつはものにしたがひて、そのかたちを  
 なすものなり。又祝言をかなにかきたるすがたぞなど、おもひよせてはるべきかなり。

図-9 観自在王院庭園（舞鶴が池）【基衡段階】と「作庭記」



平泉における浄土庭園の発展類型模式図

一 無量光院新御堂事  
 秀衡建立之、其堂内四壁扉、圖繪觀經大意、加之、秀衡自  
 圖繪狩獵之跡、本佛者阿彌陀丈六也、三重寶塔、院内莊嚴、  
 悉以所換字治平等院也、  
 「吾妻鏡」

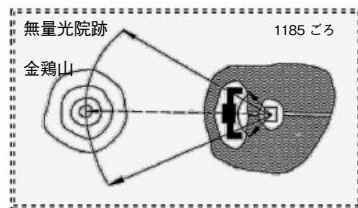
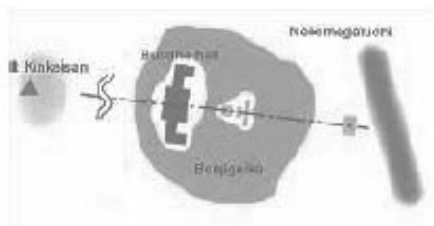
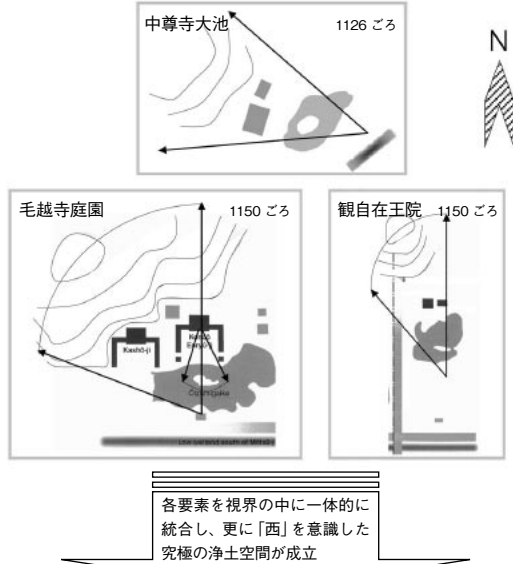


図-10 無量光院園池（梵字が池）【秀衡段階】と平泉における浄土庭園の発展模式図

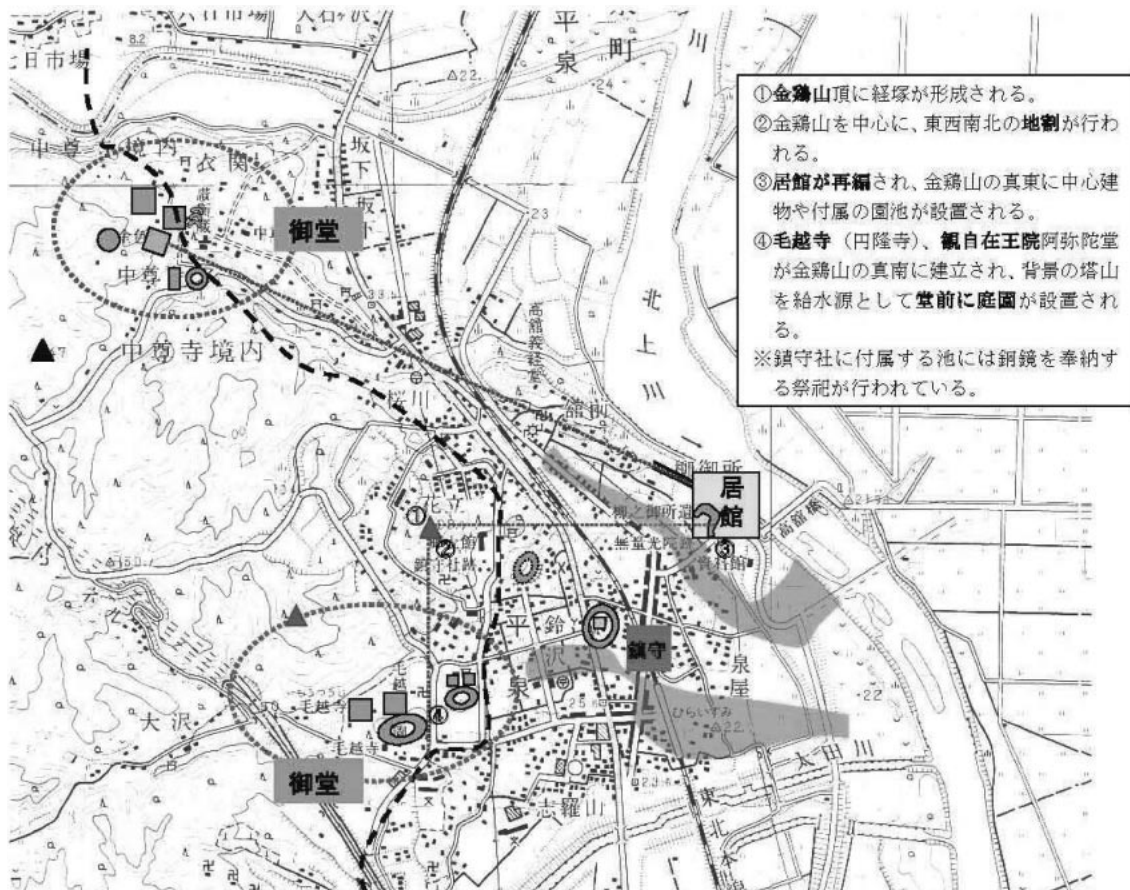
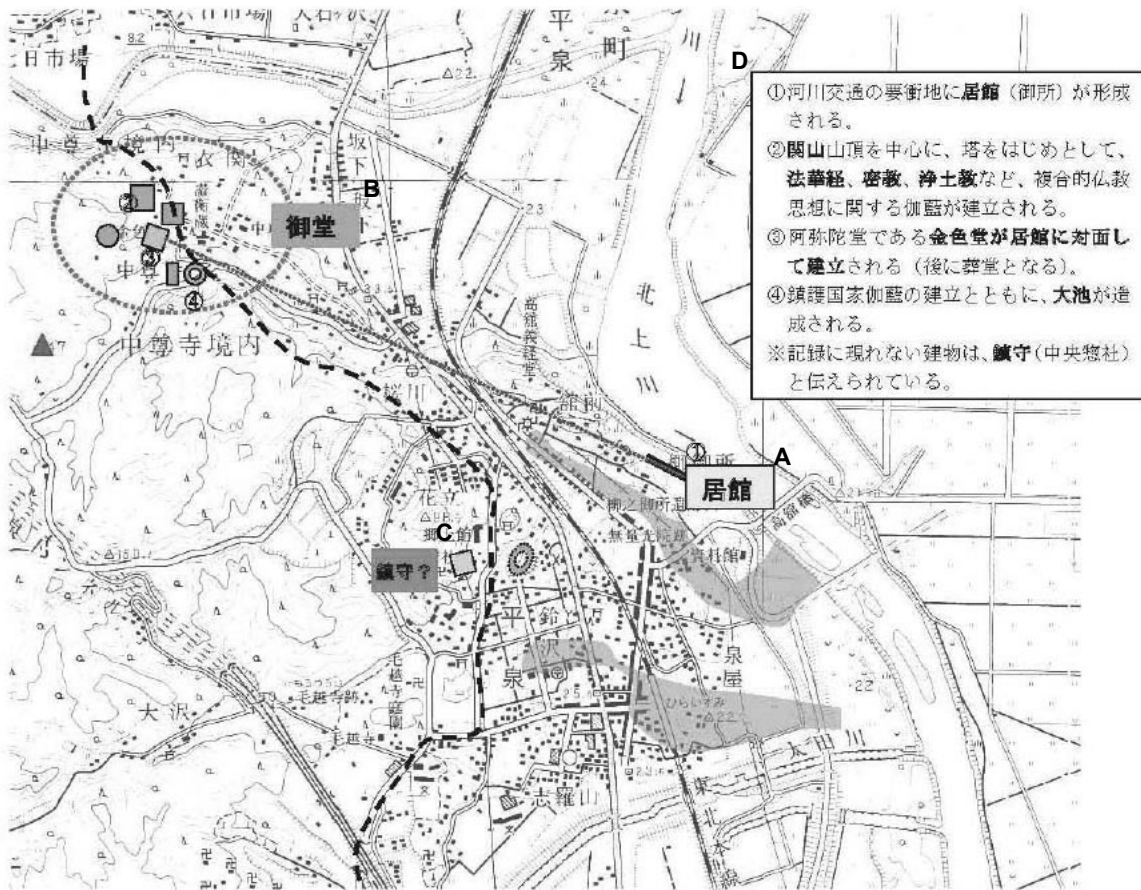


図-11 「平泉」における浄土世界の形成過程（上段：清衡段階、下段：基衡段階）





図一 12 「平泉」における浄土世界の形成過程（秀衡・泰衡段階）

表 「平泉」中心域に所在する庭園群

No.	位置	名称	時期		長軸方向	規模(m) (太字は発掘により確認)			護岸	形状	対応建物	中島		橋	導水		排水	調査	備考
			12C前半	12C中葉		東西	南北	深さ				形状	建物		方向	勾配			
1	中尊寺	大池		清衡		70	120	1.0	素掘り土塁	不整形	古経蔵か	不整形	弁天堂 ×	×	北西-南東	?	1960-2008		
2	中尊寺	三重の池	12C中葉	基衡か	南北	?	?	?	玉石組	不整形	伝金堂か	不整形玉石積	弁天堂 ○	○	周辺流域からの表面水	?	1960-1967	浄土庭園	
3	毛越寺	大泉が池	12C中葉	基衡	東西	190	90	0.8	玉石敷	不整形	金堂(円隆寺)	不整形2時期	×	○	北-南	5/100	1955-1958, 1980-1990		
4	毛越寺	弁天堂	12C中葉	基衡か	東西	80	40	?	素掘り	不整形		(2箇所)	弁天堂	?	?		なし	舞鶴が池への導水施設	
5	観自在王院跡	舞鶴が池	12C中葉	基衡		90	90	1.4	一部石敷き	不整形	阿弥陀堂	不整形	×	△	北西-南東		1954-1955		
6	無量光院跡	梵字が池	12C後半	秀衡後半		110	135	0.3	素掘り	不整形	阿弥陀堂	(3箇所)	阿弥陀堂ほか	△	北西-南東	2/100	1952-2008	浄土庭園	
7	達谷窟	蝦蟇が池	12C	基衡～秀衡か		?	?	?	玉石組	不整形	西光寺毘沙門堂	隅丸方形か	弁天堂	?	?		1968		
8	白山社		12C中葉	基衡		?	?	1.0	玉石組	?	白山社	?	鎮守社	○	北西-南東		1992	社殿前園池	
9-1	柳之御所遺跡		12C中葉	基衡	南北	42	23	0.8	素掘り	馬蹄形	居館(持仏堂か)	×		○	自然湧水か		1990-2005	寝殿造系庭園	
9-2	柳之御所遺跡		12C後半	秀衡後半	南北	42	53	0.6	玉石敷き	楕円形	居館(邸宅か)	△(不整形か)	×	×	自然湧水か		1990-2005		